

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所 あそび星		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 15日		～ 2026年 1月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	2026年 2月 9日		～ 2026年 2月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	十分な活動スペースと複数の部屋、広い庭を活かし、用途に応じた空間の使い分けができています。	<ul style="list-style-type: none"> 活動内容に応じて部屋を分け、集中できる空間と身体を動かす空間を明確に区分している。 子どもの特性やその日の状態に応じて活動場所を柔軟に変更している。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源(公園、地域ボランティア等)との連携による活動の幅の拡大に努めていく。
2	「静」と「動」の活動をバランスよく取り入れられる環境が整っている。	<ul style="list-style-type: none"> 一日の活動の流れの中で、「静」と「動」の時間を意識的に組み立てている。 活動スペースを用途別に分けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動内容のスケジュールをイラストなどを利用し、視覚的にわかりやすくしていく。 運動プログラムの専門性向上のため、スタッフへの研修を継続して取り組んでいく。
3	家庭にいるような雰囲気の中で、子どもが安心感を抱き、落ち着いて過ごせる。	<ul style="list-style-type: none"> リビングの空間を中心に、家庭に近い生活動線を活かした支援を行っている。 生活体験(おやつ準備、片付け等)を主体性を引き出し、自然な形で取り入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員間で、ケース会議を密に行い、支援内容の共有を図っていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母会等の開催がなく、保護者同士の交流や事業所と保護者が関わる機会が十分とは言えない。	<ul style="list-style-type: none"> 集団的な保護者交流の場を設ける余裕が少なかった。 保護者の就労状況等により、集合形式の開催が難しいと考えていた。 	<ul style="list-style-type: none"> オンライン開催や小規模懇談会等、参加しやすい形式を検討していく。 保護者同士が緩やかにつながれる情報共有の場づくりを検討していく。
2	職員の多くが障がい福祉分野での支援経験が浅いため、専門的知識や実践力の蓄積・定着が途上にある。	<ul style="list-style-type: none"> 日々の業務が優先され、振り返りや共有の時間が限られている。 支援方法の標準化(マニュアル化)が十分ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的なケース会議や振り返りの時間を設ける。 支援マニュアルを整備し、職員間で共有し、支援の質の向上を図る。 課題に則したスタッフへの研修を継続し、取り組んでいく。
3			